

シリーズ

「私の森語り」

もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「樹に逢いに」



写真家
高橋 敬市

■自己紹介

立山黒部アルペンルート^{あしくらのじ}の玄関口、富山県の「芦峯寺」を拠点に、富山湾の海拔〇メートルの海から北アルプスの三、〇〇〇メートルまでの自然や風土を撮影、取材を続けている写真家。

これまでに県内外での写真展をはじめ、講演会、作品を写真集、雑誌、新聞、カレンダーなどに発表。

■活動内容

自宅の一部に、写真ギャラリー「NATUR」とカフェシヨップを開設しています。ギャラリーでは



写真ギャラリーとティールーム

七五インチの大型画面を使った写真と音楽によるコラボレーションも上映しています。

二〇〇一年に出版した写真集「立山杉」を二十二年ぶりに大幅改訂し、電子出版として五月下旬に二十二世紀アート(株)から発刊する予定です。また、朝日新聞富山版に二〇一三年から「剣岳遠近」と題して十年間(三六二回)にわたって掲載し続けてきた記事を写真集として今年八月に出版予定です。

■メッセージ

これまで「水の循環」を自らのライフワークとして撮り続けてきました。

立山連峰に降り積もった雪や雨が春、雪解けとともに高い山から草原、森を抜け、滝を落とし、峡谷から河川となって富山湾に流れ、水蒸気になって天空に運ばれ雲となって雨や雪を降らせる。中でも森は海と山をつなぐ大切なエリアです。

富山湾が「豊穡の海」ともいわれるのは、森林の栄養分が海に運ばれ、多くのプランクトンが魚類を育むともいわれています。

私にとっての森とは、北アルプスの「ゆりかご」のような場所なのかもしれません。



立山の森の中にある立山杉の巨木に案内した時

そんな森で生涯忘れることができない出来事がありました。

二〇一八年六月五日、立山の美女平で撮影中、熊と突然遭遇し、頭から顔面にかけて全治三週間の重傷を負いました。幸い大事には至らず、二十一日ぶりに退院することができました。

悪いのは私の無知で、熊には非がなかったということです。

この事故を人生のよき教訓にし、また、初心に返って本業にカムバックしました。



2001年に出版した立山杉の写真集

○連絡先

〒930-1406

富山県中新川郡立山町芦峯寺51
高橋敬市写真事務所

電話：076(481)1912

✉ kt@photo-natur.com

